

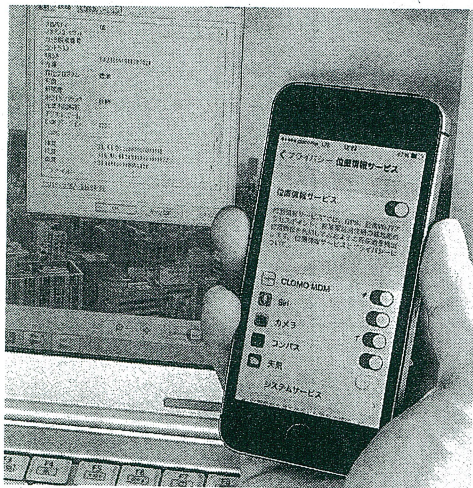
「2013年度事業申請書」「修正予算(案)」「チーム名簿」……。1990年代から災害被災地の支援活動を続けているNPO法人の男性幹部は7月、画面に表示される内部文書の数々を見て青ざめた。

数年前からメンバーや支援者の間で使っていた米グーグルの無料メール共有サービス「グーグルグループ」でのやりとりが、インターネット上で誰でも見られる「公開」の設定になっていた。「勤務先や携帯電話番号、銀行の口座番号まで丸見えだったなんて……」

グーグルグループを巡っては昨夏、中央官庁の職員らが初期設定の公開状態のまま業務で利用していたことが問題化。米グーグルはその後、新規

個人情報丸見え

設定ミスワナ



撮影場所によっては位置情報を含んだ写真がトラブルの種になりかねない

ネット社会

リスクを知る

利用者については初期設定を外部に非公開とする(スマホ)のアプリも、仕様に変更した。ただ、機能や設定を理解しない既存利用者は自ら設定を変更する必要があり、いまだに公開が続いているケースは残っている。

「家に会いに行くのをやめてほしいければ裸の写

トラブルの芽 事前に摘む

真を送れ、と脅された。規約にも注意が必要」と一般財団法人「インターネット協会」(東京・港)には、主に10代の女性から1〜2カ月に1回のペースでこうした相談が寄せられる。「原因の多くはスマホを使って自宅周辺で撮影した画像」(協会の担当者)

撮影時の位置情報を記録する設定で地球測位システム(GPS)機能を起動させていると、画像データに緯度や経度などの情報が添付される。その画像をネットで公開したり、知り合いに送ったりすれば「自宅の大まかな位置を第三者に特定されてしまう危険性は高い」(同)という。

ネットセキュリティ分野を含むコンサルタント会社を営む吉政忠(関連記事を電子版にWeb刊↓紙面連動)

「情報通信工学」は「どう設定したらいいか周囲の詳しい人に教えてもらうなど、少し気をつけるだけでもトラブルは避けられる」と呼び掛ける。

ネットサービスやアプリの名称に「注意」「危険」といった単語をつけて検索してみれば、一般利用者が経験したトラブル報告や専門家のアドバイスが見つかることは少なくない。